

第 2 期伊勢市環境基本計画に基づく取組の実施状況

1. 調査概要

第 3 期伊勢市環境基本計画の施策及び事業を検討するため、第 2 期伊勢市環境基本計画に定める各課の環境に関する事業への取組状況、事業の成果・課題、今後の方向性を調査した。

表 庁内事業調査の実施内容

項目	内容
調査対象	第 2 期伊勢市環境基本計画における関連部局
調査方法	アンケート票(エクセルファイル)をメールで送付
調査内容	<p><「重点事業」について></p> <p>①現行計画に記載の「重点事業」の昨年度実績と今年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組について、昨年度と今年度の取組内容の確認 ・関連指標の進捗状況 <p>②第 3 期伊勢市環境基本計画策定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の総括評価（成果、課題等） ・今後の方向性 <p><「その他事業」について></p> <p>①現行計画に記載の「事業」の昨年度実績と今年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組について、昨年度と今年度の取組内容の確認 <p>②第 3 期伊勢市環境基本計画策定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の総括評価（成果、課題等） ・今後の方向性
調査時期	2019 年 8 月 6 日～21 日

2. 調査結果

第 2 期伊勢市環境基本計画に定める環境に関する事業の今後の課題や方向性を次頁以降に整理した。

ここでは、現行計画（第 2 期伊勢市環境基本計画）の体系（4 つの基本目標）に沿って整理した。

(1) 重点事業

(総括)

1	地球環境に配慮し、資源やエネルギーを大切にする、循環型社会のまち
	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな国の方針や社会動向を踏まえつつ、<u>再生可能エネルギーの導入の方向性</u>の見直しや<u>次世代自動車の更なる導入</u>を図る必要がある。 ● 燃えるごみの量の目標達成状況が難しい状況もあり、<u>ごみの減量・資源化に関する事業を強化し、市民・事業者の意識の更なる向上</u>を図る必要がある。
2	豊かな自然を守り、水と緑と人が共生する魅力あるまち
	<ul style="list-style-type: none"> ● 池干しによる外来生物の除去等、生物多様性の保全に向けた取組を継続して実施している一方で、生物多様性への理解・認識は高いとは言えないため、<u>生物多様性に関する認知度向上に向けた取組</u>が必要である。 ● 汚水処理人口は増加を続けており、浄化槽の設置や下水道整備の推進により、着実に施策や取組が進んでいる。引き続き、<u>水質汚濁の防止・改善、および良好な生活環境の確保</u>を目的とした取組を進める必要がある。
3	歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち
	<ul style="list-style-type: none"> ● 多面的機能支払活動組織数については、増加傾向にあるものの、目標達成が厳しい状況にあることから、<u>更なる活動組織の増加を図る</u>必要がある。 ● 伊勢市空家等対策計画に基づき、空家に関する啓発や指導を推進しており、空家等の除却・管理済件数は目標を上回っているが、市内の空家は、人口減少や少子高齢化に伴い、今後増加することが見込まれるため、<u>更なる空家等対策の推進を図る</u>必要がある。
4	協働でつくる、人と環境にやさしいまち
	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民のための環境学習の機会や場の提供、学校における環境教育への支援などを引き続き実施するとともに、<u>地域企業や関係機関等と連携の強化</u>や<u>講座内容の質的向上</u>する必要がある。

(関連指標の進捗状況)

指標	実績値				目標値
	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度
太陽光発電設置件数(中部電力(株)との太陽光発電の受給契約件数)	3,580 件	3,885 件	4,121 件	4,405 件	6,500 件
燃えるごみの量	43,159t/年	42,948t/年	42,603t/年	41,918t/年	34,000t/年
汚水処理人口	91,624 人	93,128 人	94,451 人	96,758 人	94,000 人
多面的機能支払活動組織数	26 組織	26 組織	27 組織	28 組織	33 組織

(各重点事業の評価・方向性) ※詳細は「参考資料」(P10～11)を参照。

基本目標	No.	重点事業名	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
1 地球環境に配慮し、資源やエネルギーを大切にす、循環型社会のまち	1	太陽光発電設備設置の推進	環境課	住宅における太陽光発電設備の導入として、設置可能な既存住宅については概ね設置されたものと思われる。	固定価格買取制度等の国の方針の変化、また、新築住宅における標準化の傾向等を踏まえた見直しを予定。
	2	「おかげさまAction!」に基づく、次世代自動車の利用促進	環境課	協議会参画者の電気自動車の導入、公共機関としての電気バスの導入、電気自動車等を活用した観光プランの作成など、一定の成果を得て、協議会はH30年度末に解散した。	世界的にもガソリン車から電気自動車へのシフトが加速してきており、引き続き、電気自動車のさらなる普及の為、イベント等でPRしていく必要がある。
	3	エコドライブの推進	環境課	実技講習もある体感型の講座であり、受講者は約25%の燃費改善が見られる。受講後の実践、積み重ねが見込まれば、大きな効果が期待できる。	引き続き実施する。
	4	燃えるごみの減量	清掃課	燃えるごみの量は減少しているが、目標値に達していない。	更新が予定されているごみ処理施設の整備計画にも多大な影響を及ぼすため、さらなるごみの減量・資源化に関する事業を展開していく。
2 豊かな自然を魅力あるまち、水と緑と人が共生	5	動植物の生息・生育状況の把握	環境課	市職員の理解を深める為、環境省の協力を得て、庁内研修を行った。また、関係者との連携を図りながら池干しを実施した。	事業の認知度向上、取組の継続・充実に向け、目標を明確化するため、取り組みの積み重ねが必要。
	6	公共下水道・合併処理浄化槽の整備推進	環境課 上下水道総務課	公共下水道供用済み区域以外の区域において、合併浄化槽の設置適正管理を促進するため、浄化槽の設置費用の一部の補助を行った。 計画通り下水道工事を実施し、目標値を達成することができた。	今後も継続して合併処理浄化槽の設置に対する補助金を交付する。 引き続き下水道事業計画区域内の整備を進め、普及率の向上を図る。

基本 目標	No.	重点事業名	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
3 歴史・文化の薫る、 快適に暮らせるまち	7	農村地域の共同活動の強化	農林水産課	活動組織数が目標値に届かなかった。組織数の増加に向け、推進活動内容の検討が必要。	今後も継続して事業を実施し、新たな活動予定組織に対し、事業の推進活動を行いたい。
	8	空き家対策の推進	建築住宅課	空家等の除却・管理済件数が目標値を大きく上回ったことから、啓発や指導等において、一定の効果はあったと考える。	市内の空家は、人口減少や少子高齢化に伴い、今後増加することが見込まれるため、適正管理及び市内への移住を併せた利活用等の啓発を継続し、空家等対策の推進を図る。
4 協働でつくる、人と環境にやさしいまち	9	環境教育の促進	環境課	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の出前講座等は、実施した児童、先生にも好評いただいている。 一部講座は申込制限の必要もでてきており、実施体制やメニューの充実が求められている。 ・伊勢市環境会議が主催する水生生物による水質調査といった自然とふれあえる野外環境学習を小学生対象として実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座内容の質的向上、提供企業等の新規開拓等により充実を図る。 ・今後も自然とふれあえる野外環境学習を実施していく。
			学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校においては、家庭や地域と連携して環境デーや環境教育の取組を進めている。 ・出前講座の活用については、環境教育や環境保全等の理解を深めることができ、一定の成果がある。しかし、企業や関係機関等の実施数や受け入れ規模が影響することもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校における環境教育の実施については令和5年度まで継続実施の予定。 ・出前講座については、地域企業だけでなく、関係機関等も含め活用していきたい。

(2) その他事業

1 地球環境に配慮し、資源やエネルギーを大切にす、循環型社会のまち

(総括)

- 太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーの導入やごみ処理等のエネルギーの有効利用、電気自動車の普及を継続して推進しており、今後は市民のニーズや社会動向を踏まえた低炭素社会づくりを推進する必要がある。
- より CO₂排出量の少ない公共交通機関利用へのシフトの意識や関心が高まっているため、地域公共交通事業の充実と公共交通機関への利用促進を図る必要がある。
- 低炭素社会への転換をめざし、省エネ機器等への更新・導入を継続して実施する必要がある。
- さらなるごみの減量に向けて、食品ロスの削減に関する施策や雑がみの分別の定着化・習慣化を促進させるための事業を継続して実施していく必要がある。

(主要な回答一覧) ※詳細は「参考資料」(P12~13)を参照。

施策名	関連事業名 (-:事業名なし)	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
再生可能エネルギーの導入促進	・太陽光発電普及促進事業	環境課	住宅における太陽光発電設備の導入として、設置可能な既存住宅については概ね設置されたものと思われる。	固定価格買取制度等の国の方針の変化、また、新築住宅における標準化の傾向等を踏まえた見直しを予定。
次世代自動車の普及促進	・コミュニティバス運行事業 ・自主運行バス運行事業 ・観光交通対策特別会計	交通政策課	事業に対するニーズが高まっている中、コミュニティバス利用者数の増加など公共交通機関の利用促進について一定の効果があつた。また、交通渋滞対策(パークアンドバスライド等)を実施し、自動車乗車時間の減少を図り、CO ₂ 削減に寄与した。"	運転免許証自主返納者の増加など事業に対する市民の意識や関心が高まっているため今後は地域公共交通の再編を実施し、事業の充実と公共交通機関への利用促進を図る。また、交通渋滞対策(パークアンドバスライド等)を実施し自動車乗車時間の減少を図り CO ₂ 削減を図る。
省エネルギーの推進	・防犯灯 LED 化推進事業	危機管理課	低炭素化社会実現を目指し、夜間の犯罪防止のために自治会が設置し維持管理している防犯灯の LED 化を推進してきた。LED の高い省エネ性により CO ₂ 排出量削減を図るとともに、LED 化により削減できた電気代により、今後の施策・対策を進めていく。	今後も、低炭素化社会実現を目指し、夜間の犯罪防止のために自治会が設置し維持管理している防犯灯の LED 化を推進していく。

施策名	関連事業名 (- : 事業名なし)	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
廃棄物の発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化容器設置補助金 ・MOTTAINAI推進事業 	清掃課	更新が予定されているごみ処理施設の整備計画にも多大な影響を及ぼすため、燃えるごみの減量は必須の課題となっている。	さらなるごみの減量に向けて、3Rの中でもリデュース（発生抑制）に重きを置いて、食品ロスの削減に関する施策等を継続して事業を実施していく。
廃棄物の再使用・再生利用の推進"	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源回収推進事業 ・MOTTAINAI推進事業 	清掃課		さらなるごみの減量に向けて、分別の徹底を図る。特に雑がみの分別の定着化・習慣化を促進させるための事業を実施していく。

2 豊かな自然を守り、水と緑と人が共生する魅力あるまち

(総括)

- 有識者・企業・三重県等、多様な主体と連携した生物多様性の保全を推進する必要がある。
- 水質汚濁の防止・改善等の良好な生活環境の確保を目的とした取組として継続的に実施したことで一定の成果を得ている。
- 勢田川七夕大そうじや自然とふれあえる野外環境学習等、自然とふれあう機会や環境の整備が図られている。今後も引き続きこれらの取組を推進し、より効果的に推進するための自然体験や自然保護に関する取組みの検討を図る必要がある。
- 森林の有する保全林・環境林の持つ機能の向上を継続して図る。

(主要な回答一覧) ※詳細は「参考資料」(P13～15)を参照。

施策名	関連事業名 (-:事業名なし)	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
生物多様性の保全	衛生一般経費	環境課	池干し等により外来生物の駆除を実施した。	有識者・企業・三重県等と連携し、今後もため池の池干しを実施する予定。
水環境の保全	宮川流域連携事業負担金	企画調整課	水質汚濁の防止・改善、および良好な生活環境の確保を目的とした取組として継続的に実施したことで一定の成果を得ている。	宮川流域ルネッサンス協議会事務局の事業方針に基づき、内容を調整し、実施する。
自然とのふれあいの増進	生活排水対策啓発事業	環境課	環境に配慮した食生活の大切さを学ぶことを、エコ・クッキングを通して参加者に伝えられた。	伊勢市環境会議が東邦ガス㈱と内容について検討しながら、今後も続けていくことになる。
森林環境の保全	環境保全林整備事業	農林水産課	間伐整備することで、保全林・環境林の持つ機能を向上させることができた。	引き続き、年次計画により間伐整備することで、保全林・環境林の持つ機能の向上を図る。

3 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち

(総括)

- 空家対策やバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進等を継続して実施しており、都市・快適環境の向上に努めている。人口減少や少子高齢化の問題に適正に対応するために引き続き取組を進める必要がある。
- 公害法令に基づき、公害対策を継続して実施していく。
- 歴史的・文化的環境の保全について、今後も、伊勢の環境文化の発信や良好な景観形成の推進を継続する必要がある。

(主要な回答一覧) ※詳細は「参考資料」(P15～16)を参照。

施策名	関連事業名 (-:事業名なし)	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
住環境の 向上	空家等対策事業	建築住宅課	空家等の除却・管理済件数が目標値を大きく上回ったことから、啓発や指導等において、一定の効果はあったと考える。	市内の空家は、人口減少や少子高齢化に伴い、今後増加することが見込まれるため、適正管理及び市内への移住を併せた活用等の啓発を継続し、空家等対策の推進を図る。
	調査事業	環境課	騒音・振動にかかる環境基準の達成状況の把握ができ、概ね達成していた。	公害法令に基づき、公害監視業務として今後も継続して監視していく。
バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	バリアフリー観光向上事業	観光振興課	「伊勢おもてなしヘルパー」の利用実績は年々増えてきており、少しずつではあるが、観光客に認知されつつある状況。ただし、ホームページのアクセス数は減少しており、情報発信について見直す必要がある。	今後も継続する予定。
伊勢の環境文化の保全	—	環境課	<ul style="list-style-type: none"> ・環境フェア等で、毎年継続して伊勢の環境文化の発信を行っている。 ・三重県のモデル事業はH28年度に終了。 	三重県のモデル事業はH28年度に終了したが、市で計画を引き継ぎ、取り組みを他市町への発信していきたい。
良好な景観の形成	景観形成推進事業	都市計画課	伊勢市景観計画における重点地区で交付要綱に適合した事業に対する補助金の交付や景観コンケルの実施による景観形成の意識啓発により、良好な景観形成の推進を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度以降も事業を実施。 ・二見町茶屋地区において、重点地区景観形成基準の見直しを検討していく。

4 協働でつくる、人と環境にやさしいまち

(総括)

- 子どもから大人までのあらゆる年齢層が学べる環境教育を展開するとともに、講座内容の質的向上、提供企業等の新規開拓等により更なる充実を図る必要がある。
- 今後も、環境教育等の推進のために、地域や企業・関係機関等と連携できる体制づくりを進めていくことが必要である。

(主要な回答一覧) ※詳細は「参考資料」(P16~17)を参照。

施策名	関連事業名 (-:事業名なし)	担当課	本事業の総括評価 (成果、課題等)	今後の方向性
ESDに基づく環境教育・学習の充実	・きれいなまちづくり推進事業 ・MOTTAINAI推進事業	清掃課	ポスターコンクールについては、毎年一定数の作品応募もあり、小中学生の3Rへの関心を高めており、出前授業については、小学校の社会科授業の補完として好評を得ている。	ごみ分別キャラクターを用いた体験・参加型の「出前授業」等を定着化させ、どの世代も楽しく分かりやすい環境教育を進めていく。
環境教育等を推進する体制づくり	—	学校教育課	地域の特色に応じて、地域や企業・関係機関等と連携しながら、海や河川などの保全活動などを実施している。	今後も、環境教育等の推進のために、地域や企業・関係機関等と連携できる体制づくりを進めていくことが大切である。
	環境教育推進事業	環境課	環境教育の出前講座等は、実施した児童、先生にも好評頂いている。一部講座は申込制限の必要もでてきており、実施体制やメニューの充実が求められている。	講座内容の質的向上、提供企業等の新規開拓等により充実を図る。
市民・事業者・行政の連携・協働	・きれいなまちづくり推進事業 ・生活排水対策事業 ・衛生一般経費	清掃課 環境課	伊勢市環境会議に、環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、活動を推進した。一定の活動展開はできているが、構成メンバー、活動等の固定化の課題がある。	今後も伊勢市環境会議に、環境啓発に係る事業実施のための負担金を支出し、活動を推進していくと共に、体験型・参加型の「出前授業」等を定着化させ、さらなるごみの減量、分別・資源化に向けた市民意識の定着化・習慣化を図っていく。
環境情報の収集・分析	—	清掃課	市HP,広報いせなどを通じて情報発信しており、環境フェア等のイベント集客数の多さからも、一定の成果が得られていると考えられる。	引き続き実施する。